

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型			
教科	国語	科目	現代の国語	単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「現代の国語」 (数研出版)		補助教材等	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 準拠ワーク (数研出版) 級別漢字セミナー (浜島書店)			
科目の目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
第 1 学期 中間 考查 まで		<ul style="list-style-type: none"> ○「論理的ということ」 ・論理性とはどういうことか、なぜ論理が必要とされるのかについて、筆者の主張を理解する。 ・筆者の主張を理解し、論理的ではないコミュニケーションの具体的例を挙げ、論理的に言い換える。 評論の読み方 <対比の構造> ○「水の東西」 ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・対比の構造に着目し読み進めることで、評論の読み方を知る。 【ズームアップ】文化 <実用の文章> ○コミュニケーションの手段を考える ・非言語コミュニケーションの要素や特徴を理解し、具体的事例を挙げる。 ・コミュニケーションのあり方についてクラスで考え、話し合う。 	知識 技能	定期考査等 課題やレポート			
			思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート			
			主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 振り返りシート等			
第 1 学期 期末 考查 まで	<ul style="list-style-type: none"> <対比の構造> ○「攻撃」と「共存」 ・対比の構造に注意をして、筆者の主張を理解する。 ・筆者の考える現代社会の問題を理解した上で、「現代という時代」について、自分自身の問題として考察し、論拠とともに考えを述べる。 <一般論と主張> ○「ポスト・プライバシー」 ・筆者が論じる「アイデンティティ」のあり方の変容を理解する。 ・筆者の論を踏まえた上で、今日の社会が向かっている方向性について考える。 【ズームアップ】情報とメディア <実用の文章> ○目的に合わせて表現を工夫する ・条例の本文とそれに基づくパンフレットのそれぞれの文体や表現上の特徴を理解する。 ・条例の前文をわかりやすく周知するためのパンフレットを作成し、相互批評する。 	知識 技能	定期考査等 課題やレポート				
		思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート				
		主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 作品や課題				
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	評価規準	◎	○	○			
		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ・推論の仕方を理解し使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の論理展開を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って具体的に考えようとしている。 ・筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	<p><論理とレトリック> ○「コインは円形か」 ・筆者が述べるレトリックの意味を理解する。 ・「レトリック感覚」が必要とされる理由を考え、説明する。 <具体と抽象> ○「ものごとことば」 ・筆者が論じる「もの」と「ことば」の関係を的確に理解する。 ・筆者の主張を踏まえ、「ことば」についての自分の考えを深める。 【ズームアップ】どこにも蝶などいない <実用の文章> ○資料を分析して考えをまとめる ・資料の読み取りや分析の仕方を理解する。 ・分析内容から得られた自分の考えを他者が理解できるよう適切にまとめる。</p>			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期 期末 考査 まで	<p><具体と抽象> ○「人と自然の共生とはどういうことか」 ・筆者の主張する「文化的共生」について理解する。 ・「人と自然の共生」とはどういうことかを考え、自分たちはどうあるべきかを考える。 【ズームアップ】環境問題のこれから <比較する> ○「政治的思考」 ・「政治的思考」において大切なことを的確に理解する。 ・「民主政治」の特徴を「独裁政治」と比較しながら的確に理解し、自分の考えを深める。 <実用の文章> ○根拠の妥当性を説明する ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。</p>			知識 ・ 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動				
	振り返りシート等				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	・目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。 ・目的や意図に応じて、実社会から適切に題材を決め、情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。	・筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。 ・筆者の意見や参考資料をもとに実社会の問題について積極的に考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	
学年 末 考査 まで	<p><視野を広げる> ○「他者を理解すること」 ・筆者の考える「理解すること」の内容について正しく読み取る。 ・他者の理解において大切なことは何かを理解する。 【ズームアップ】自己と他者の理解とは <思考を深める> ○「時間と自由の関係について」 ・時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、要約する。 ・筆者の論を踏まえ、現代社会の問題点について考える。 【ズームアップ】近代と時間の関係 <実用の文章> ○文章の構成を工夫して提案する ・提示されている条件や情報を読み取り、話し合う。 ・読み取った内容をもとに企画書を書き、相互評価をもとに遂行する。 ○課題を発見し解決策を発表する ・課題全文体の内容を把握し、的確に要約する。 ・課題に関する自分のテーマを設定し、問題点や解決方法を考え、発表する。</p>			知識 技能	定期考査等
					課題やレポート
				思考 判断 表現	定期考査等
課題やレポート					
主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等				
	課題やレポート				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・目的や場に応じて、実社会から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	・論理展開を押さえながら筆者の述べている内容を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 ・課題資料が示す内容と身の回りの問題を積極的に関連付け、学習課題に沿って適切な解決策を考えようとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型				
教科	国語	科目	言語文化		単位	3	必修 選択	必修
使用教科書	「高等学校言語文化」 (数研出版)		補助教材等	「高等学校言語文化 準拠ワーク」 (数研出版) 「基礎から学ぶ解析古典文法」 (桐原書店) 「漢文必携」 (桐原書店)				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深め、その担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや訓読の決まり、古典特有の表現について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えながら、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作人の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで古典特有の決まりや表現について理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持つようとしている。 進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとしている。 				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)				観点別評価			
				観点	評価の手段			
第 1 学期 中間 考查まで	〈古文〉 ・「児のそら寝」 (宇治拾遺物語) 古文を学ぶ者としての常識を押さえつつ、読解の基礎を学ぶ。 ・品詞の分類と活用 古文文法における品詞の種類と特徴を大まかにつかむ。 ・「検非違使忠明」 (宇治拾遺物語) 動作主の推察を行い、助動詞「けり」や「已然形+ば」の接続の仕方や訳し方などを理解する。 ・用言の活用 動詞、形容詞、形容動詞の活用の種類を知り、その特徴を理解する。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	定期考查等			
					課題やノート			
					小テスト等			
第 1 学期 期末 考查まで	〈漢文〉 ・訓読の基礎 訓点を施された漢文を書き下し、漢文訓読の基礎力を養う。 ・再読文字、助字、置き字 再読文字や助字、置き字の特性を理解し、適切に訓読できる知識と技能を身に付ける。 ・「漁夫之利」 (戦国策) 否定の句法を押さえながら、本文の展開の面白さを味わう。 〈古文〉 ・「ある人、弓射ることを習ふに」 (徒然草) 助動詞「む」「べし」に留意し、自戒を含む展開を味わう。 ・助動詞の文法的意味と活用 ・「芥川」 (伊勢物語) 在原業平との関連を押さえつつ、歌を中心とした展開に着目する。	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	定期考查等			
					課題やノート			
					小テスト等			
第 1 学期	観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	定期考查等			
					課題やノート			
					小テスト等			
第 1 学期	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語の決まりを理解できているか。 訓読の決まりを理解し、文章の内容を的確に読み取っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 随筆や物語などの文章の種類を踏まえて、叙述内容を的確に捉えているか。 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌や随筆、格言や故事成語に触れ、古文や漢文の世界に進んで親しもうとしているか。 				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	〈古典から現代へ〉 ・「羅生門」 極限状態にある人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取る。 〈漢文〉 ・否定、疑問、反語の句法 漢文特有の否定、疑問、反語の句法を学び、読解する力を養う。 ・「管鮑之交」（十八史略） 交友を扱った本文を通して故事成語のもとになった逸話を学ぶ。 ・使役、受身の句法 使役や受身の句法を学び、文の主述関係を語順などと関連させて理解する。 〈古文〉 ・「ありがたきもの」（枕草子） 類聚的章段を読み、お題と列挙の構造を把握して内容を理解する。 ・助詞 ・「門出」（土佐日記） 紀貫之が女性に仮託して書いた日記文学を読み、古文常識なども踏まえながら当時の航行について理解する。			知識・技能	定期考査等 課題やノート 小テスト等
				思考判断表現	定期考査等 授業での活動 振り返りシート等
				主体的に学習に取り組む態度	課題やノート 授業での活動 振り返りシート等
第2学期 期末 考査 まで	〈漢文〉 ・漢詩の形式 近体詩の種類と特徴を理解し、押印や対句などの事項を押さえる。 ・「静夜思」李白 ・「月夜」杜甫 唐代を代表する詩人の詩を、漢詩特有の修辞法を押さえつつ、情景を思い浮かべながら味わう。 〈古典から現代へ〉 ・「山月記」 中国の小説を典拠とした作品を読み、漢文訓読調の文体や、原作との相違点の効果なども考えながら、物語の展開を味わう。 〈古文〉 ・「祇園精舎」（平家物語） ・「木曾の最期」（平家物語） 和漢混交文の文体を味わいながら読み進め、郷土に関連する人物の取り扱われている作品を味わう中で描かれる人物像を捉える。			知識・技能	定期考査等 課題やノート 小テスト等
				思考判断表現	定期考査等 授業での活動 振り返りシート等
				主体的に学習に取り組む態度	課題やノート 授業での活動 振り返りシート等
第2学期	観点別評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価規準	・漢文の基本的な句法を理解し、その知識を活用して書き下しや現代語訳ができていないか。 ・漢詩の詩形や押韻、対句などについて理解できているか。 ・文語助動詞などの文法事項を手がかりに適切に読み取ることができているか。	・漢詩の対句や押韻といった表現上の特徴を踏まえて作品を味わい、情景を解釈できたか。	・歴史物語の時代背景や、和漢混交文の音の響きを踏まえて作品を味わおうとしたか。	
学年 末 考査 まで	〈漢文〉 ・論語 孔子の言行録に触れ、東アジアの思想・文化に大きな影響力をあたえた文章を漢文で味わう。 ・科挙について 古代から続く中国の官吏登用制度と文化の成熟・発展との連関を理解する。 〈古文〉 ・「漂泊の思ひ」（おくのほそ道） 松尾芭蕉の俳諧紀行を読み、不易流行の思想や表現の奥深さに触れる。 ・英語で読む百人一首 在原業平の代表歌を読み、解釈の違いや英訳に触れる中で、日本古典を相対化する視野を養う。			知識・技能	定期考査等 課題やノート 小テスト等
				思考判断表現	定期考査等 授業での活動 振り返りシート等
				主体的に学習に取り組む態度	課題やノート 授業での活動 振り返りシート等
第3学期	観点別評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価規準	・日本を代表する俳人の紀行文を知り、その道程や作品について理解することができたか。 ・古代中国の思想の種類とその概要について理解を深めることができたか。	・構成に注目しながら作品に込められた思いを読み取り、作者が旅をどのようなものと捉えているか、解釈できたか。 ・古代中国の思想を踏まえ、時代を超えた普遍性をもつ価値について考え、自分のものの見方考え方を豊かにできているか。	・日本各地の歌枕について興味をもち、芭蕉が訪ね歩いた風景を思い描こうとしたか。 ・古代中国の思想を自分や現代日本の道徳観などに結び付けて解釈しようとしたか。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	1 年	学科	普通科	類型				
教科	地理歴史	科目	地理総合		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	わたしたちの地理総合 改訂版 (山川出版) 新詳高等地図 (帝国書院)		補助教材等	世界の諸地域NOW (帝国書院) 地理総合の研究 (啓隆社)				
科目の目標	社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	・知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 ・技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて、考察、構想する力を養う。	・地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
第 1 学期 中間 考查 まで	第 1 章 地図とGISの活用 第 1 節 球面上の世界 ・球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。 第 2 節 国家の領域と領土問題 ・国家の 3 要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響についても考察する。 第 3 節 国内や国家間の結びつき ・国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。 ・人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動を理解する。 第 4 節 日常生活のさまざまな地図 ・身の回りの地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。 ・紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	定期考查等 課題やレポート 授業での活動			
		知識 技能			定期考查等 課題やレポート 授業での活動			
		知識 技能			定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
第 1 学期 期末 考查 まで	第 2 章 生活文化の多様性と国際理解 第 1 節 自然環境と生活文化 ・地球上の起伏の分布とプレートテクトニクスにもとづくプレートの境界との関連について考察する。 ・河川がつくる地形や海岸部の地形と人々の暮らしを考察する。 ・大気が循環する仕組みを捉え、日射・地形分布・海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。 ・世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。 第 2 節 産業の発展と生活文化 ・世界の農業・工業・第 3 次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。 ・アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を考察する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	定期考查等 課題やレポート 授業での活動			
		知識 技能			定期考查等 課題やレポート 授業での活動			
		知識 技能			定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	観点別 評価	◎	○	○				
	評価規準	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことを理解している。	・世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多様性や変容の要因など多面的・多角的に考察し、表現している。	・日本の位置や領域をめぐる問題について、主体的に追究し関心を深めている。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第2学期 中間 考查まで	第2章 生活文化の多様性と国際理解 第3節 言語・宗教と生活文化 ・世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。 ・世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について考察する。 第4節 グローバル化の進展と生活文化 ・EUの統合による産業や生活文化への影響、経済格差や移民問題などの諸課題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。 ・アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりを考察する。			知識 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				授業での活動			
第2学期 期末 考查まで	第3章 地球的課題と国際協力 第1節 人口・食料問題 ・人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。 第2節 居住・都市問題 ・都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取り、人口集中による都市問題を写真などから判読する。 第3節 資源・エネルギー問題 ・エネルギー資源の変化を主題図や統計資料をもとに資源の偏在性、有限性、消費における地域格差などの諸課題を読み取る。 第4節 地球環境問題 ・地球規模の環境問題を構造的に理解し、解決策を考察する。 ・環境問題と自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。			知識 ・ 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				授業での活動			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・産業の発展や変化、地域差について理解している。 ・世界各地でみられる環境問題や人口問題などを基に、地球的課題の傾向性について大観し理解している。		
						評価 規 準	・産業の発展とその課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、現状や要因、解決の方向性について多面的に考察している。
第4章 生活圏の諸課題 第1節 自然環境と防災 ・日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。 ・日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することから、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。 第2節 持続可能な地域づくり ・新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身に付ける。 ・景観観察やアンケート・聞き取り調査など、さまざまな調査方法を踏まえて、身近な地域の魅力やかかえている課題を見だし、その解決策を考察する。	知識 技能	定期考査等					
		課題やレポート					
	学年末 考查まで	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
評価 規 準							・自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ・ハザードマップや地形図を読み取り、情報を収集し、まとめる技能を身に付けている。
	第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
評価 規 準							・自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ・ハザードマップや地形図を読み取り、情報を収集し、まとめる技能を身に付けている。

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型				
教科	地理歴史	科目	歴史総合		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	詳述歴史総合新訂版 (実教出版)		補助教材等	詳述歴史総合新訂版マイノート (実教出版) 明解歴史総合図説シンフォニア五訂 版 (帝国書院)				
科目の目標	○世界とそこにおける日本を、広く相互的な視野でとらえることができる。 ○資料を活用しながら、歴史の学び方や基礎的な概念を習得することができる。 ○現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を考察し、表現することができる。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	世界とそこにおける日本を、相互的な視点から幅広く理解し、また諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。	近代以降の日本と世界について、時期や推移を比較し、現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を身に付けている。	近代以降の日本と世界について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して世界の中で生きる日本人としての自覚を持つとともに、他国の文化を尊重することの大切さを認め、課題を主体的に探究しようとしている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
第 1 学期 中間 考查まで	第 1 章 近代化への胎動 ・18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 第 2 章 欧米の市民革命と国民国家の形成 ・産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
第 1 学期 期末 考查まで	第 3 章 アジアの変容と日本の近代化 ・日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	観点別 評価	◎	○	○				
	評価規準	・近代の日本と世界について、歴史的環境と文化の形成などその特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・産業革命や国民国家の形成といった国際関係の変化、社会の変化などに着目して、近代社会の特質について多面的・多角的に考察している。	・近代の日本と世界について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第2学期 中間 考查まで	<p>第4章 帝国主義の時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 <p>第5章 第一次世界大戦と大衆社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解させる。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察、表現させる。 			知識 技能	定期考查等	課題やレポート	授業での活動	
					思考 判断 表現	定期考查等	課題やレポート	授業での活動
				主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
第2学期 期末 考查まで	<p>第6章 経済危機と第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 			知識 ・ 技能	定期考查等	課題やレポート	授業での活動	
					思考 判断 表現	定期考查等	課題やレポート	授業での活動
				主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○				
	評価 規 準	・帝国主義と二度の世界大戦、それによる国際関係の変化などについて、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・二度の世界大戦に至る国際関係の推移や変化に着目して、世界とその中の日本の変容について多面的・多角的に考察している。	・帝国主義と二度の世界大戦、それによる国際関係の変化などについて、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。				
学年 末 考查 まで	<p>第7章 冷戦と脱植民地化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察、表現させる。 <p>第8章 多極化する世界、第9章 グローバル化と現代世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 			知識 技能	定期考查等	課題やレポート	授業での活動	
					思考 判断 表現	定期考查等	課題やレポート	授業での活動
				主体的に 学習に取り 組む態度		課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○				
	評価 規 準	・現代にいたる日本と世界の諸地域について、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。	・冷戦期の世界の諸相や各国の動向に着目して、現代社会の成立と展開について多面的・多角的に考察している。	・現代の私たちを取り巻く諸課題について、歴史的な視点から主体的に、かつ他者と協働しながら多面的・多角的に考察しようとしている。				

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通			
教科	公民	科目	公共		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「詳述公共 新訂版」(実教出版)		補助教材等	フォーラム公共(東京法令出版)				
科目の目標	現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解するとともに、必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけさせ、現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を養うことで、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めさせる。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	・現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解している。 ・必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけている。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を身につけている。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。				
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価				
第1学期 中間 考查まで	第1編 公共の扉 1 社会を作る私たち ・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察する。 2 人間としてよく生きる ・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料からよりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付け、多面的・多角的に考察し、表現する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	観点			評価の手段
					定期考查等			課題やレポート
					授業での活動			振り返りシート等
第1学期 期末 考查まで	3 民主社会の倫理 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解し、実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。 4 民主国家における基本原理 ・法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解する。 ・公共的な空間における基本的原理の一つである人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について考察し、理解する。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	観点			評価の手段
					定期考查等			課題やレポート
					授業での活動			振り返りシート等
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
		◎	○	○				
		・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティについて理解している。 ・世界の思想や民主社会の倫理、民主国家の原理について理解している。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・青年期に生きる自己形成の課題について考えている。 ・人間としての在り方生き方について考えている。 ・個人と社会との関わりについて多面的に考察し表現している。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査まで	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 日本国憲法の基本的性格 ・日本国憲法の基本原理を理解し、国際平和と人権の尊重について、考察する。 2 日本の政治機構と政治参加 ・わが国の三権分立と国会の地位、国会の役割と権限 国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ・政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察する。 ・地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題 住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期 期末 考査まで	3 現代の経済社会 ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の課題を考察する。 4 経済活動のあり方と国民福祉 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					課題やレポート
					授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
第2学期	評価 規 準	・わが国の憲法や政治機構について理解している。 ・実際の政治事象や現代の経済社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・人権や実際の政治事象についての課題について多面的に考察し表現している。 ・現代の経済社会についての課題について多面的に考察し表現している。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。	
		学年 末 考査 まで	5 国際政治の動向と課題 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 6 国際経済の動向と課題 ・自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制 国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・為替のしくみと外国為替市場、国際通貨制度とその変化、国際金融の動向について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ・現代の諸課題について、探究的な課題を設定し課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりする。	知識 技能	思考 判断 表現
課題やレポート					
授業での活動					
第3学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		◎	○	○	
第3学期	評価 規 準	・国際法や国際経済の仕組みなどについて理解している。 ・現代の国際社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・現代の国際社会における課題について多面的に考察し表現している。 ・現代の国際経済社会についての課題について多面的に考察し表現している。	・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・国際社会に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型			
教科	数学	科目	数学 I	単位	3	必修 選択	必修
使用教科書	「新編 数学 I」(数研出版)		補助教材等	3TRIAL 数学 I + A (数研出版)			
科目の目標	数と式, 図形と計量, 2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けさせ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培うことで, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用しようとする態度を育てる。						
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎		○		○	
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 数と式, 図形と計量, 2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し, 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力, 図形の構成要素間の関係に着目し, 図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力, 関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を表, 式, グラフを相互に関連付けて考察する力, 社会の事象などから設定した問題について, データの散らばりや変量間の関係などに着目し, 適切な手法を選択して分析を行い, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。 	
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)				観点別評価		
第 1 学期 中間 考査 まで	第1章 数と式 第1節 式と計算 ・式の見方を豊かにするとともに, 整式の加法・減法・乗法, および因数分解について理解を深め, 公式などを利用して整式の展開や因数分解を能率よく計算できるようになる。 第2節 実数 ・数を実数まで拡張することの意義を理解し, 実数の概念や平方根を含む計算の基本的な考え方について理解する。 第3節 1次不等式 ・不等式とその解の意味を理解し, 1次不等式の解法に習熟させ, 大小に関する身近な問題の解決に活用できるようになる。	知識 技能	定期考査等		課題やレポート		
			思考 判断 表現	定期考査等		課題やレポート	
				主体的に 学習に取 組む態度		課題やレポート	
第 1 学期 期 末 考査 まで	第2章 集合と命題 ・図や表などを用いて, 集合の包含関係など集合に関する基本的な事項を具体的な事象に基づいて理解する。 ・集合の包含関係と関連付けて, 必要条件, 十分条件, 対偶, 背理法などを学習し, 論理的な思考力を磨く。 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ ・関数とそのグラフについて理解を深め, 2次関数のグラフの概形を平行移動の考え方を利用して描けるようになる。	知識 ・ 技能	定期考査等		課題やレポート		
			思考 判断 表現	定期考査等		課題やレポート	
				主体的に 学習に取 組む態度		課題やレポート	
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価規準	◎		○		○	
		<ul style="list-style-type: none"> 展開の公式や因数分解の公式を利用できる。 根号を含む式の加法, 減法, 乗法の計算ができる。また, 分母の有理化ができる。 不等式における解の意味を理解し, 1次不等式を解くことができる。 空集合, 共通部分, 和集合, 補集合について理解している。 平方完成を利用して, 2次関数のグラフの軸と頂点を調べ, グラフをかくことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 式の形の特徴に着目して変形し, 展開の公式や因数分解の公式が適用できるようにすることができる。 身近な問題を1次不等式の問題に帰着させ, 問題を解決することができる。 命題の真偽を, 集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 2次関数の特徴について, 表, 式, グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 式の変形, 整理などの工夫において, よりよい方法を考察しようとしている。 直接証明法では難しい命題も, 対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち, 実際に証明しようとしている。 放物線のもつ性質に興味・関心を示し, 自ら調べようとしている。 	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第2学期中間考査まで	第2節 2次関数の値の変化 ・2次関数の最大・最小について理解を深め、最大値や最小値を求める具体的な問題の解決に活用できるようになる。 ・与えられた放物線のグラフや条件から、その2次関数を定められるようになる。 第3節 2次方程式と2次関数 ・2次関数のグラフやx軸との位置関係を利用して、2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式の解法を習熟する。 第4章 図形と計量 第1節 三角比 ・三角比（正弦・余弦・正接）の概念を導入し、鈍角までの三角比の相互関係について理解を深め、直角三角形に着目し、辺の長さに関する問題の解決に活用できるようになる。			知識 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				思考 判断 表現	定期考査等		
課題やレポート							
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート						
	授業での活動						
第2学期期末考査まで	第2節 三角形への応用 ・正弦定理、余弦定理や三角形の面積の公式について学習し、平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさおよび面積などを求められるようになる。 第5章 データの分析 ・統計の用語の意味やその扱いについて理解するとともに、目的に応じてデータを収集・整理し、四分位偏差、分散、標準偏差などに着目し、データの傾向を的確に把握することができるようになる。 ・散布図及び相関係数の意味を理解し、それらを利用してデータの相関を的確にとらえ説明できるようになる。 課題学習			知識 ・ 技能	定期考査等		
					課題やレポート		
				思考 判断 表現	定期考査等		
課題やレポート							
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート						
	授業での活動						
第2学期	観点別 評価	知識・技能	◎	思考・判断・表現	○	主体的に学習に取り組む態度	○
		◎	○	○			
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 2次関数を平方完成して、最大値、最小値を求めることができる。 2次不等式を解くことができる。 三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 正弦定理・余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。 平均値や最頻値、中央値、範囲、四分位範囲の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、判別式の符号から考察することができる。 既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。 データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとしている。 2次不等式を解くときに、図を積極的に利用している。 日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとしている。 変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとしている。 			

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	理系		
教科	理科	科目	物理基礎	単位	2	必修 選択	必修 選択
使用教科書	「物理基礎」(数研出版)		補助教材等	新課程 リードLightノート 物理基礎 (数研出版)			
科目の目標	物体の運動や熱、波、電気などの身近な物理現象やエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、物理学的に探究する能力と態度の育成と科学的な見方や考え方を身に付ける。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解している。科学的に探究するための観察、実験に関する基本的な技能が身についている。	観察、実験などを行い、科学的に探究できる。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。			
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)			観点別評価			
第1学期 中間 考查まで	物理量の扱い方 ・物理量の表し方やデータの扱い方を理解する。 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1, 速度 2, 加速度 3, 落下の運動 ・物体の運動が変位x、速度v、加速度aで表される事、等加速度直線運動におけるグラフでの表し方、正負の決め方を理解する。また、重力のみを受けた落下の運動は、重力加速度を受けた等加速度直線運動であることに気づく。 第2章 運動の法則 1, 力とそのはたらき 2, 力のつりあい 3, 運動の法則 4, 摩擦を受ける運動 5, 液体や気体から受ける力 ・物体には様々な力がはたらくこと、力のつり合い、運動の法則を理解する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度			
				定期考查等 課題やレポート 授業での活動			
				定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
第1学期 期末 考查まで	第3章 仕事と力学的エネルギー 1, 仕事 2, 運動エネルギー 3, 位置エネルギー 4, 力学的エネルギーの保存 ・運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度			
				定期考查等 課題やレポート 授業での活動			
				定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○	○			
		・変位、速度、加速度の定義や正負の意味を理解している。 ・等加速度直線運動の3つの式を正しく運用できる。 ・物体にかかる力の大きさと向きを判断し、どのような運動をするか判別できる。 ・仕事やエネルギーを求めることができる。 ・波の発生原理や重ね合わせを理解できる。	・グラフ上に表された運動を解析し、それをもとに物体の運動の様子を考えることができる。 ・複数の力がかかっている場合に、それらの関係や合力について考えることができる。 ・力学的エネルギー保存を用いて、物体の運動を考えることができる。 ・波の様子をグラフから読み取ったり、グラフに表したりすることができる。	・見ること、触ることができない「力」に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。 ・運動している物体がどのようなエネルギーを持っているかに興味をもち、考えようとしている。 ・実験に主体的に取り組んでいる。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価	
			観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1, 熱と熱量 2, 熱と物質の状態 3, 熱と仕事 4, 不可逆変化と熱機関 ・熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動、熱と仕事の変換について理解する。 第3編 波 第1章 波の性質 1, 波と媒質の運動 2, 波の伝わり方 ・直線上に伝わる波の性質について理解する。 第2章 音 1, 音の性質 2, 発音体の振動と共振・共鳴 ・気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。	知識 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動	
		思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
		主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
第2学期 期末 考查まで	第4編 電気 第1章 物質と電気 1, 電気の性質 2, 電流と電気抵抗 3, 電気とエネルギー ・電流、電圧、抵抗の間にはオームの法則が成り立つことを理解する。 ・自由電子の運動と電流の関係を理解する。 第2章 磁場と交流 1, 電流と磁場 2, 交流と電磁波 ・交流の発生、送電及び利用について、基本的なしくみを理解する。 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1, エネルギーの移り変わり 2, エネルギー資源と発電 ・水力、火力、原子力、太陽光などのエネルギーの特性や利用など について、物理学的な視点から理解する。 第2章 物理学が拓く世界 1, 摩擦をコントロールする 2, エネルギーを有効利用する 3, 見えないものを見る ・「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている 科学技術と結びついていることを理解する。	知識 ・ 技能	定期考査等 課題やレポート 授業での活動	
		思考 判断 表現	定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
		主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 弦や気柱の振動と音の高さの関係、開口端補正について理解している。 オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。 電流が作る磁場、交流についての基礎を理解している。 エネルギーの種類や身近に行われているエネルギー変換について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> オームの法則を理解し、I-Vグラフから金属の抵抗値を求めることができる。 電流と磁場の関係を説明できる。 直流と交流の違いを説明できる。 音に関する身近な問いかけについて、自分の考えを述べることができる。 電気回路の抵抗の接続の仕方を変えたときに起こる変化を主体的に考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音に関する身近な問いかけについて、自分の考えを述べることができる。 電気回路の抵抗の接続の仕方を変えたときに起こる変化を主体的に考えることができる。 身近な科学技術に物理学がどのように活用されているかについて興味をもっている。

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	1 年	学科	普通科	類型				
教科	理科	科目	化学基礎		単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	「化学基礎」 (実教出版)		補助教材等	ニューアチーブ化学基礎 (東京書籍) フォローアップドリル化学基礎 (数研出版)				
科目の目標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。	自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対して探究しようとしている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
				観 点	評 価 の 手 段			
第 1 学期 中間 考查 まで	1 章 物質の構成 1 節 物質の探究 ・物質を成分によって「混合物、純物質、化合物、単体」に分類できることを知り、各物質の特徴を理解する。 ・身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心を持ち、それらを意欲的に探究しようとする。 ・物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。 ・粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解する。			知識 技能	定期考查等			
					課題プリント			
					授業での活動			
第 1 学期 期末 考查 まで	2 節 物質の構成粒子 ・原子の大きさや構造について理解する。原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。 ・イオンの生成を電子配置と関連づけて考える。 ・電子の配列と性質との関わりについて理解する。 2 章 物質と化学結合 1 節 イオン結合 ・陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。 ・水溶液中や溶融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。 ・イオン結合でできた物質の性質について探究する。			思考 判断 表現	授業での活動			
					定期考查等			
					課題プリント			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に 学習に取り 組む態度 ○	授業での活動			
					課題プリント			
					授業での活動			
	評価規準	・粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解している。 ・元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつけられていることを理解することができる。	・物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。 ・水溶液中や溶融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。	・物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとしている。 ・元素の性質に興味を持ち、元素の性質が周期的に変わることを探究しようとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第2学期中間考査まで	2節 共有結合と分子間力 ・分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考える。 3節 金属結合 ・金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解し、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解する。 4節 化学結合と物質 ・身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考える。			知識 技能	定期考査等			
					課題プリント			
				授業での活動				
第2学期期末考査まで	3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式 ・原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的・包括的に理解できているとともに、物質量を用いた基本的な計算をする。 ・モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解する。 2節 酸と塩基 ・酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連つけて酸・塩基の反応を捉える。 ・酸・塩基の価数・強弱の関係を理解している。性、塩基性の程度とpHの関係を理解する。			知識 ・ 技能	定期考査等			
					課題プリント			
				授業での活動				
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・分子からなる物質や、共通結合の結晶の性質について探究しようとしている。 ・金属に共通する性質について、探究しようとしている。 ・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて、探究しようとしている。			
						評価 規 準	・共有結合を電子配置と関連づけて理解している。 ・電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。 ・原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的・包括的に理解している。	・電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考えることができる。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。 ・さまざまな酸・塩基の強弱について考察することができる。
							・酸化数の定義を理解している。 ・イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。	・酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。 ・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて、探究しようとしている。 ・酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとする。
学年末考査まで	3節 酸化還元反応 ・酸化・還元の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。酸化数の定義を理解する。 ・金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出す。 ・酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究する。			知識 技能	定期考査等			
					課題プリント			
				授業での活動				
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて、探究しようとしている。 ・酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとする。			
						評価 規 準	・酸化数の定義を理解している。 ・イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。	・酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。
							・身近な現象と酸化還元反応を関連付けて、探究しようとしている。 ・酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとする。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	普通科	類型	文系					
教科	理科	科目	生物基礎		単位	2	必修 選択	必修		
使用教科書	「i版 生物基礎 改訂版」 (啓林館)		補助教材等	リードLightノート 生物基礎 (数研出版) i版 生物基礎 改訂版 授業ノート (啓林館)						
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。									
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	重点	○	◎	○						
	評価規準	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。						
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価						
				観 点	評 価 の 手 段					
第 1 学期 中間 考查 まで	<p>第 1 章 生物の特徴</p> <p>第 1 節 生物の共通性</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物を比較し生物は多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来することを理解させる。 生物に共通する性質は細胞であり、原核細胞と真核細胞があることを内部構造と共に理解させる。 <p>第 2 節 生物とエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要から理解させ、それらがATPの合成反応であると理解させる。 			知識 技能	課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考查等				
					思考 判断 表現			課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考查等	
								主体的に 学習に取り 組む態度		
第 1 学期 期末 考查 まで	<p>第 2 章 遺伝子とその働き</p> <p>第 1 節 遺伝子の本体と構造</p> <ul style="list-style-type: none"> DNAの構造や性質、関係性と、体細胞分裂の際に遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。 <p>第 2 節 遺伝情報とタンパク質</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命現象とタンパク質の関係を通して、タンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成される仕組みと、遺伝子は常に細胞内で発現しているわけではないことを理解させる。 			知識 ・ 技能	課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考查等				
					思考 判断 表現			課題やレポート	授業での活動 振り返りシート等 定期考查等	
								主体的に 学習に取り 組む態度		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> すべての生物は共通した特徴をもつことを理解している。 遺伝子とDNAと染色体の関係について理解している。 転写と翻訳の過程の概略を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物にみられる特徴について説明できる。 光合成や呼吸において、ATPが利用される過程と、担う役割について説明できる。 塩基の相補性に着目し、DNAの複製のしくみを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料からわかることを積極的に読み取るようとしている。 DNAの複製について、資料から読み取れることを積極的に説明しようとしている。 塩基配列とアミノ酸配列の関係を、資料から積極的に読み取るようとしている。 						

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第2学期 中間 考査まで	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 情報の伝達と体内環境の維持 ・生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。 ・体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、調節ができなくなったときに発症する疾患について理解させる。			知識 技能	課題やレポート			
					授業での活動			
					振り返りシート等			
第2学期 期末 考査まで	第2節 免疫 ・免疫の仕組みと液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・身近な免疫疾患を取り上げ、一次応答と二次応答について理解させる。 第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 ・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物(植生)が存在することを理解させる。 ・植生はそれを取り巻く環境から影響を受けて変化(遷移)していくことを理解させる。			思考 判断 表現	課題やレポート			
					授業での活動			
					振り返りシート等			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	・二次応答によって同じ感染症にかかりにくいことを資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。 ・気候が異なると植生はどのように変わるのかを考えている。			
						評価 規 準	・体液の種類と関係について理解している。 ・生体防御には、皮膚などによる防御と免疫があることを理解している。 ・植生、相観、優占種について理解している。	・体内環境の調節では、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。 ・生体防御について物理的・化学的に病原体の侵入を防ぐ機構と免疫に分けて説明できる。 ・遷移が起こる原因を説明できる。
							・気温や降水量の違いにより地球上には多くのバイオームが成立し、それらは遷移の結果、森林・草原・荒原となることを理解させる。 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と植物の多様性 ・生態系における生物の種多様性と生物間の関係性を物質とエネルギーの移動と関連付けて理解させる。 第2節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させ、生態系保全の重要性を認識し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。	知識 技能
・植生と降水量、平均気温を示したグラフが読み取れる。 ・各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。 ・生態系を保全する意義を説明できる。	思考 判断 表現	授業での活動						
学年 末 考査 まで	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・植生ごとの環境の比較の観察に積極的に取り組もうとしている。 ・上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取ろうとしている。 ・河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。			
						・年降水量と年平均気温におけるバイオームの図を理解している。 ・生態系の構造を理解している。 ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解している。	・植生ごとの環境の比較の観察に積極的に取り組もうとしている。 ・上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取ろうとしている。	
						・河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。	主体的に学習に取り組む態度	
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	・植生ごとの環境の比較の観察に積極的に取り組もうとしている。 ・上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取ろうとしている。 ・河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。			
						評価 規 準	・年降水量と年平均気温におけるバイオームの図を理解している。 ・生態系の構造を理解している。 ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解している。	・植生と降水量、平均気温を示したグラフが読み取れる。 ・各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。 ・生態系を保全する意義を説明できる。
							・河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。	主体的に学習に取り組む態度

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2年	学科	普通科	類型	理系			
教科	理科	科目	生物基礎		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	「i版 生物基礎 改訂版」 (啓林館)		補助教材等	リードLightノート 生物基礎 (数研出版) i版 生物基礎 改訂版 授業ノート (啓林館)				
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
第1学期 中間 考查まで	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 ・生物を比較して多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来する事を理解させる。 ・細胞は生物に共通し、原核細胞と真核細胞について内部構造と共に理解させる。 第2節 生物とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要を理解させ、ATPの合成反応であると理解させる。 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造 ・DNAの構造や性質と関係性と、分裂の際に遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能		課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考查等				
		知識 技能		課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考查等				
第1学期 期末 考查まで	第2節 遺伝情報とタンパク質 ・生命現象とタンパク質の関係を通し、DNAの遺伝情報に基づくタンパク質合成の仕組みと、遺伝子の細胞内での発現を理解させる。 第3章 ヒトのからだの調節 第1節 情報の伝達と体内環境の維持 ・生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。 ・体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、調節ができなくなったときに発症する疾患について理解させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度				
		知識 技能		課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考查等				
		知識 技能		課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考查等				
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	観点別 評価	◎	○	○				
	評価規準	・全ての生物は共通した特徴を持つことを理解している。 ・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解し、転写と翻訳の概略を理解している。 ・体液の種類と関係について理解している。	・生物の特徴について説明できる。 ・光合成や呼吸においてATPが利用される過程と、その役割を説明できる。 ・塩基の相補性に着目し、DNAの複製のしくみを説明できる。 ・体内環境の調節では、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。	・資料から分かる事を積極的に読み取ろうとしている。 ・DNAの複製について資料から読み取れる事を積極的に説明しようとしている。 ・塩基配列とアミノ酸配列の関係を資料から積極的に読み取ろうとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価	
			観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查まで	第2節 免疫 ・免疫の仕組みと液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・身近な免疫疾患を取り上げ、一次応答と二次応答について理解させる。 第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 ・生物は環境からの影響を受けつつ存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解させる。 ・植生はそれをとり巻く環境から影響を受けて遷移することを理解させる。 第2節 バイオーム ・気温や降水量の違いにより多くのバイオームが成立し、それらは遷移の結果、森林・草原・荒原となることを理解させる。	知識 技能	課題やレポート	授業での活動
			振り返りシート等	定期考査等
			思考 判断 表現	課題やレポート
振り返りシート等	定期考査等			
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動		
	振り返りシート等			
第2学期 期末 考查まで	第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と植物の多様性 ・生態系における生物の種多様性と生物間の関係性を物質とエネルギーの移動に関連付けて理解させる。 第2節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスは人為的攪乱によりそれが崩れる場合があることを理解させ、生態系保全の重要性を認識し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。	知識 ・ 技能	課題やレポート	授業での活動
			振り返りシート等	定期考査等
			思考 判断 表現	課題やレポート
振り返りシート等	定期考査等			
主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動		
	振り返りシート等			
第2学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		◎	○	○
第2学期	評価 規 準	・生体防御には、皮膚などによる防御と免疫があることを理解している。 ・植生、相観、優占種について理解している。 ・生態系の構造を理解している。 ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解している。	・生体防御について物理的・化学的に病原体の侵入を防ぐ機構と免疫に分けて説明できる。 ・植生と降水量、平均気温を示したグラフが読み取れる。 ・各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。 ・生態系を保全する意義を説明できる。	・二次応答により同じ感染症にかかりにくい事を資料から読み取り積極的に説明しようとしている。 ・植生ごとの環境の比較の観察に積極的に取り組んでいる。 ・上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取ろうとしている。 ・河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型	共通					
教科	理科	科目	地学基礎		単位	2	必修 選択	必修		
使用教科書	「高等学校地学基礎」 (啓林館)		補助教材等	地学基礎の基本マスター新訂版 (啓林館)						
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。									
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	重点	◎	○	○						
	評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通し、情報収集、仮説や実験の設定と観察、データの分析・解釈、推論など探究方法を習得するとともに、レポート作成や発表を通して、理解した内容を表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。自然環境の保全に寄与しようとしている。						
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価						
				観 点	評 価 の 手 段					
第 1 学期 中間 考查 まで	第 1 部 固体地球とその活動 第 1 章 地球 第 1 節 地球の外観 ・地球の形の特徴と大きさを観察や測定結果を通して見だし、厳密には球でないことを理解させる。 第 2 節 地球の内部構造 ・地殻やマントルを構成する岩石の特徴を見いださせ、層構造について理解させるとともに地球内部の状態を理解させる。 第 2 章 活動する地球 第 1 節 プレートテクトニクスと地球の活動 ・プレート分布と運動及びそれに伴う大地形の形成について理解させる。 第 2 節 地震 ・火山活動や地震に関する資料から火山活動と地震発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させるとともにプレート境界における火山の活動や分布などの特徴を理解させる。			知識 技能	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等		
					思考 判断 表現	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等	
						主体的に 学習に取 組む態度	課題やレポート			授業での活動
第 1 学期 期末 考查 まで	第 3 節 火山活動と火成岩の形成 ・火山活動と火成岩の形成の仕組みについて理解させるとともに岩石の組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいた分類ができるようにする。 第 2 部 大気と海洋 第 1 章 大気と海洋 第 1 節 大気圏 ・気圧や気温の鉛直方向の変化について、大気の特徴を理解させるとともに、気圧や気温が高度とともに変化し、対流圏成層圏、中間圏、熱圏が気温の変化によって区分されることを理解させる。 第 2 節 水と気象 ・水の循環と対流圏の気象について理解させる。 第 2 章 太陽放射と大気・海水の運動 第 1 節 地球のエネルギー収支 ・地球の熱収支について理解させる。			知識 ・ 技能	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等		
					思考 判断 表現	課題やレポート	授業での活動		振り返りシート等 定期考查等	
						主体的に 学習に取 組む態度	課題やレポート			授業での活動
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	評価 規 準	プレートの運動や境界について理解するとともに、プレート運動によって大地形が形成されることを理解している ・砂や火山灰の観察から鉱物を識別し、火成岩を組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいて分類できる。 ・大気の層構造について理解し、各層の特徴や観測される現象について説明することができる。	・地殻を構成する岩石の特徴から、地球内部の密度や層構造について説明できる。 ・地震と火山の分布がプレート境界に対応することを見だし、プレートの運動によって地震や火山活動が起こることを説明できる。	・地球の形や大きさを調べるにあたり、過去の人々がとった方法や、地球の実際の形や大きさについて関心をもち学習しようとしている。						

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考査 まで	第2節 大気の大循環 ・大気の大循環と地球規模の熱の輸送について理解させるとともに、偏西風、貿易風、ハドレー循環、暖流、寒流などを理解させる。 第3節 海水の循環 ・海水の運動と地球の熱の輸送について理解させる。 第3章 日本の天気 第1節 日本の位置 第2節 冬から春の天気 第3節 夏から秋の天気 ・日本の気象に影響を与える偏西風や大陸と海の分布について理解させる 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第1節 宇宙の誕生 第2節 太陽系の誕生 ・宇宙と太陽系の誕生、太陽系の天体の特徴について理解させる。	知識 技能	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等	
			思考 判断 表現	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動
第2学期 期末 考査 まで	第2章 地球と生命の進化 第1節 先カンブリア時代 第2節 顕生代 ・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解させる。 ・古生物の変遷と地質時代の区分、地球環境の移り変わりについて理解させるとともに、地層や化石の観察をとおして古生物の変遷を理解させる。 ・地球環境の変化について、大気の変化と生命活動が相互に関わりながら地球環境が変化してきたことを理解させる。 第3章 地球史の読み方 第1節 地層からわかること 第2節 地層の形成 第3節 地層の読み方 ・化石と地層の対比について理解させる。	知識 ・ 技能			課題やレポート	授業での活動
			思考 判断 表現		課題やレポート	授業での活動
				主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎			思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙誕生について、ビッグバン以降に水素原子やヘリウム原子が誕生して宇宙の晴れ上がるまでの過程を理解している。 ・地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解するとともに、各地質時代の出来事や特徴的な生物、化石について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地質構造の観察から、当時の環境や地殻変動を推定することができる。 ・化石の観察結果から古生物の特徴を考察することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・気温や気圧が高度とともに変化し、大気に層構造があることに関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 ・地形や地層、化石について意欲的に観察や実験を行い、それらが作られた環境や原因を学ぶことを通して、地球の歴史とその特徴を説明しようとしている。 	
学年 末 考査 まで	第4部 自然との共生 第1節 地球環境と人類 第2節 地震災害・火山災害 第3節 気象災害 第4節 災害と社会 第5節 人間社会と地球環境の変化 ・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解させる。 ・日本における自然環境の特徴を理解させ、それらがもたらす恩恵や災害など、人間生活が自然環境と深く関わっていることを学ばせる。 ・地域の自然災害の実例や防災に関する資料、ハザードマップなどに基づいて、地域の自然災害の特徴を理解させる。	知識 技能	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等	
			思考 判断 表現	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	課題やレポート	授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎			思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で起きている自然環境の変化について理解するとともに、それらの変化が人間活動の影響によって起きていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。 ・地球環境に影響を及ぼしている人間活動について考察するとともに、現在の状況が続くことによる将来への影響について総合的に判断することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の起きる状況を理解し、災害リスクを減らすための科学的な見方・考え方を身につけようとしている。 ・地球規模の自然環境やそこで起きている環境変化について関心を持って学習しようとしている。 	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	1 年	学科	普通科	類型				
教科	保健体育	科目	体育		単位	3	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)				
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のため他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	◎	○	○				
	評価規準	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かにすることができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、運動に親しもうとしている。				
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価				
				観 点	評価の手段			
第 1 学期 中間 考查まで	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立てて取り組ませる。 陸上競技 ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身につけさせる。			知識 技能	授業での活動			
					発問に対する応答			
					実技テスト等			
第 1 学期 期末 考查まで	球技 ア. ゴール型 サッカー イ. ネット型 バレーボール ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法を理解するとともに作戦委応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できる。攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えさせる。 体育理論 ①スポーツの始まりと変遷 スポーツの始まりについて知り、なぜスポーツが世界中に広まったのかを理解させる。 ②文化としてのスポーツ 多様ななかかわり方によるスポーツ文化の変容について例をあげて説明させる。			思考 判断 表現	授業での活動			
					発問に対する応答			
					授業に対する態度			
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動			
					発問に対する応答			
					授業に対する態度			
第 1 学期	評価 規準	・運動種目のルール、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、試合や発表の仕方などについて理解している。 ・運動種目の固有の技能や動き、演技について自己の能力に応じた目標設定を安定して行うことができる。	・生涯にわたって運動を豊かに継続するために自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・各種目に主体的に取り組むとともに、良いプレーや、良い演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしようとしている。				

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通		
教科	保健体育	科目	体育	単位	2	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等学校保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)			
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに挑戦するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 運動の多様性や体力の必要性を理解している。 必要となる技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を身につけている。 健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。 			
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
第1学期 中間 考査まで	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解し、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、体づくり運動に主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 陸上競技 ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度			
		授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等	授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等	授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等			
		授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等	授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等	授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等			
第1学期 期末 考査まで	陸上競技 ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 ダンス ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 武道（柔道・剣道） ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア.ゴール型：フットサル イ.ネット型：バレーボール ウ.ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ①スポーツにおける技能と体力 技術と技能の違いについて説明できる。 ②スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程を理解し、各段階に応じた練習方法を考えることができるようにする。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度			
		授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
		授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等	実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等			
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	◎	○	○				
第1学期	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 体力の構成要素、実生活への取り入れ方、役立て方を理解している。 技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 各種目特有の技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。 勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 健康・安全を確保しようとしている。 			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）	観点別評価	
		観 点	評価の手段

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考査まで	ダンス ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 武道（柔道・剣道） ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、バドミントン ウ.ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	知識 技能	授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		
			思考 判断 表現		授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等
					主体的に 学習に取り 組む態度	
第2学期 期末 考査まで	ダンス ・ダンスの名称や用語などを理解するとともに、交流や発表をすること、ダンスに主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 武道（柔道・剣道） ・技の名称や行い方などを理解し、攻防を展開すること、武道に主体的に取り組むことを通して伝統的な行動の仕方、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、卓球 ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ③技能の上達過程と練習 体の動きの仕組みについて説明できるようにする。 ④効果的な動きのメカニズム 体力と技能の関係を理解し、それらの高め方を説明できるようにする。	知識 ・ 技能		授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等	
			思考 判断 表現	作品や課題		課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度		
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎		思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。		
学年 末 考査まで	球技 ア.ゴール型：ユニホック、バスケットボール イ.ネット型：バドミントン、卓球 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ⑤体力トレーニング ・体力の構成要素について理解し、自己の課題にあったトレーニング方法、回数、強度を考えることができるようにする。 ⑥運動やスポーツでの安全の確保 ・運動によるけがや病気の予防方法を説明できるようにする。	知識 技能	授業での活動	実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等		
			思考 判断 表現		作品や課題	課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
					主体的に 学習に取り 組む態度	
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎		思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 ・スポーツの効果的な学習の仕方を理解している。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる	・各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。		

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	3年	学科	普通科	類型	共通							
教科	保健体育	科目	体育		単位	2	必修 選択	必修				
使用教科書	現代高等学校保健体育 (大修館書店)		補助教材等	アクティブスポーツ (大修館書店)								
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに挑戦するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。											
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度								
	重点	◎	○	○								
	評価規準	・運動の多様性や体力の必要性を理解している。 ・必要となる技能を身につけている。	・課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を身につけている。	・運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を身につけている。 ・健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。								
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価								
				観 点	評価の手段							
第1学期 中間 考查 まで	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解し、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、体づくり運動に主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 陸上競技 ・多様な楽しさと喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、主体的に取り組み、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動	実技テスト等	課題やレポート	振り返りシート等				
					授業での活動				実技テスト等	課題やレポート	振り返りシート等	
					実技テスト等							
第1学期 期末 考查 まで	陸上競技 ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア.ゴール型：サッカー イ.ネット型：バレーボール ウ.ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ①生涯スポーツの見方・考え方：ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。 ②ライフスタイルに応じたスポーツ：「現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	授業での活動	実技テスト等	課題やレポート	実技テスト等				
					実技テスト等				作品や課題	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等
					作品や課題							
第1学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	主体的に学習に取り組む態度	実技テスト等	課題やレポート	授業での活動	振り返りシート等			
						課題やレポート						
						授業での活動						
第1学期	評価規準	・体力の構成要素、実生活への取り入れ方、役立て方を理解している。 ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。	・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。	・各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。								

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価				
			観 点	評価の手段			
第2学期 中間 考查まで	球技 ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、テニス ウ.ベースボール型：ソフトボール ・勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、公正・協力・責任・参画・共生などの意欲を育み、健康・安全を確保できる。		知識 技能	授業での活動			
				実技テスト等			
			思考 判断 表現	課題やレポート			
振り返りシート等							
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動						
	実技テスト等						
	課題やレポート						
第2学期 期末 考查まで	球技 ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、卓球 ・勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、公正・協力・責任・参画・共生などの意欲を育み、健康・安全を確保できる。 体育理論 ③スポーツを推進する取り組み：国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。		知識 ・ 技能	授業での活動			
				実技テスト等			
			思考 判断 表現	課題やレポート			
作品や課題							
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動						
	振り返りシート等						
	実技テスト等						
第2学期	観点別 評価	知識・技能	◎	思考・判断・表現	○	主体的に学習に取り組む態度	○
		◎	○	○			
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 			
学年末 考查まで	球技 ア.ゴール型：ユニホック、バスケットボール イ.ネット型：バドミントン、卓球 ・勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、公正・協力・責任・参画・共生などの意欲を育み、健康・安全を確保できる。 体育理論 ⑤豊かなスポーツライフの創造 ・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。		知識 技能	授業での活動			
				実技テスト等			
			思考 判断 表現	課題やレポート			
作品や課題							
主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動						
	振り返りシート等						
	実技テスト等						
第3学期	観点別 評価	知識・技能	◎	思考・判断・表現	○	主体的に学習に取り組む態度	○
		◎	○	○			
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 ・スポーツの効果的な学習の仕方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 			

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型			
教科	保健体育	科目	保健	単位	1	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店)		補助教材等	現代高等保健ノート (大修館書店)			
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考查まで	1. 現代社会と健康 ①健康の考え方と成り立ち さまざまな健康の考え方について知り、健康を成り立たせている要因について理解する。 ②私たちの健康のすがた 現在の日本の健康水準を知り、心の健康や高齢化が社会に与える影響など健康問題の変化について理解を深める。 ③生活習慣病の予防と回復 ヘルスプロモーションの考え方について理解し、生活習慣病の予防について社会や自他の課題を知り、よりよい課題解決に向けて考えを深める。 ④がんの原因と予防 がんの種類や原因について理解する。がんの一次予防、二次予防について理解し説明できる。 ⑤がんの治療と回復 がんのおもな治療法について知り、社会的な対策について学ぶ。			知識 技能	定期考查等		
					授業での活動		
				思考 判断 表現	授業での活動		
振り返りシート等							
第 1 学期 期末 考查まで	⑥運動と健康 運動の意義を学び、健康のための運動、将来にわたり運動を継続していくために必要なことを理解する。 ⑦食事と健康 健康の保持増進にとって、食事はとくに重要な要素であることから自身の課題を知り、自身に合った解決方法を思考し説明できる。 ⑧休養・睡眠と健康 休養の必要性を自覚し、よりよい休養・睡眠のあり方について説明できる。 ⑨喫煙と健康 たばこのない社会の実現には個人および社会全体での取り組みが重要であることを理解し、新たな解決方法を探究する。 ⑩飲酒と健康 飲酒による健康への短期的・長期的影響および飲酒による社会問題について理解を深める。			知識 ・ 技能	定期考查等		
					授業での活動		
				思考 判断 表現	授業での活動		
振り返りシート等							
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に 学習に取り 組む態度 ○	主体的に学習に取り組む態度		
					◎		
					○		
第 1 学期	評価規準	・運動や喫煙、飲酒などが健康にどのように作用するのかを理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価	
			観 点	評価の手段
第2学期 中間 考査 まで	①薬物乱用と健康 薬物乱用が引き起こす心身への影響や社会問題について学び、絶対に許してはならないことを理解する。 ②精神疾患の特徴 現代社会における精神保健の課題を説明できる。 ③精神疾患の予防 精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。 ④精神疾患からの回復 精神疾患の適切な治療や回復のための、必要な社会環境について理解を深める。 ⑤現代の感染症 新興感染症と再興感染症が流行する要因を理解し、自身の感染予防について振り返り、課題解決の方法を学ぶ。 ⑥感染症の予防 感染症予防の3原則を理解するとともに、一人ひとりの適切な行動が、社会全体を感染症の流行から守ることにつながることを理解する。		知識 技能	定期考査等 授業での活動
			思考 判断 表現	授業での活動 振り返りシート等
			主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等
第2学期 期末 考査 まで	⑦性感染症・エイズとその予防 性感染症およびエイズについて基本的知識を学び、予防対策について個人及び社会の両面から理解し説明できる。 ⑧健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。 ⑨健康に関する環境づくり 社会環境が健康に与える影響について知り、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく社会づくりについて考えを深める。 2. 安全な社会生活 ①事故の現状と発生要因 交通事故の現状と実態を知り、人的要因と環境要因が関連していることを学ぶ。 ②安全な社会の形成 交通事故防止のための安全な交通社会づくりを学ぶ。		知識 ・ 技能	定期考査等 授業での活動
			思考 判断 表現	授業での活動 振り返りシート等
			主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・薬物や感染症などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。
学年 末 考査 まで	③交通における安全 交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 ④応急手当と意義とその基本 応急手当の意義や基本的な手順のほか、緊急時の積極的な行動が人命救助につながることを理解する。 ⑤日常的な応急手当 これまでの学習の復習をしながら、さらに理解を深める。熱中症は適切な判断と応急手当、その予防を理解する。 ⑥心肺蘇生法 実習を通して正確な心肺蘇生法の習得をめざすとともに、その原理を理解する。		知識 技能	定期考査等 授業での活動
			思考 判断 表現	授業での活動 振り返りシート等
			主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・事故に対する対応や応急処置などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。	・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通		
教科	保健体育	科目	保健	単位	1	必修 選択	必修
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)		補助教材等	現代高等保健ノート (大修館書店)			
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。			
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価			
第1学期 中間 考査まで	3. 生涯を通じる健康 ①ライフステージと健康 ②思春期と健康 ③性意識と性行動の選択 ④妊娠・出産と健康 ・思春期に起こる身体的変化や性意識、妊娠などについて理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	定期考査等	授業での活動	
					授業での活動	振り返りシート等	
					授業での活動	課題やレポート	振り返りシート等
第1学期 期末 考査まで	⑤避妊法と人工妊娠中絶 ⑥結婚生活と健康 ⑦中高年期と健康 ・避妊法や人工妊娠中絶、加齢に伴う心理的な変化や身体的な変化について理解させる。 ・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理について理解させる。	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	定期考査等	授業での活動	
					授業での活動	振り返りシート等	
					授業での活動	課題やレポート	振り返りシート等
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○	○			
		評価規準	・妊娠や加齢に伴う身体的精神的变化などについて、理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。		

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）	観点別評価	
		観 点	評価の手段

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期中間考査まで	⑧働くことと健康 ⑨労働災害と健康 ⑩健康的な職業生活 ・労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解させる。 4. 健康を支える環境づくり ①大気汚濁と健康 ②水質汚濁、土壌汚染と健康 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解させる。	知識 技能	定期考査等	授業での活動	
			思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第2学期期末考査まで	③環境と健康に関わる対策 ④ごみの処理と上下水道の整備 ⑤食品の安全性 ⑥食品衛生にかかわる活動 ・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準設定され、それに基づいて行われていることを理解させる。 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解させる。	知識 ・ 技能	定期考査等		授業での活動
			思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・大気汚染や水質汚染、食品衛生などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとしている。	
学年末考査まで	⑦保健サービスとその活用 ⑧医療サービスとその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪健康に関する環境づくりと社会参加 ・生涯を通じて健康を保持増進するために、各医療機関や医薬品の活用方法について正しく理解させる。 ・我が国や世界で行われている健康課題に対する様々な保健活動や社会的対策、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりについて理解させる。	知識 技能	定期考査等	授業での活動	
			思考 判断 表現	授業での活動	振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○		主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	・医療制度や医療機関などについて理解している。 ・資料やグラフなどから情報を読み取る技能を身に付けている。	・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型			
教科	芸術	科目	音楽 I	単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)		補助教材等				
科目の目標	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組ませる。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評価の手段		
第 1 学期 中間 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 「校歌」、「この道」 校歌を歌うことで、学校やクラスの帰属意識を高める。歌唱を通して、歌唱技能の基本を学び、音楽を味わって歌ったり聴いたりする。 ・楽典 「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」 基本的な音楽の理論を理解することで、歌唱曲や鑑賞曲にもより興味を示すことができる。ただ歌ったり聴いたりするだけではなく、基本からしっかりと理解し、それらを表現活動に生かす。 	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度	授業での活動		
					実技テスト等		
					小テスト		
第 1 学期 期 末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュ 「リズムを正確に読む」、「メロディーを階名で歌う」 楽典で学習した内容を生かして、リズムを読んだりメロディーを歌ったりする練習をする。 ・鑑賞 「ボレロ」 オーケストラの構造について深く理解し、それぞれの楽器の特徴や奏法に関心を持つ。また、同じメロディーを繰り返し演奏する楽曲に凝らされた工夫を自ら見つけ出し、音楽の面白さを感じる。 	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態 度	授業での活動		
					小テスト		
					課題やレポート 振り返りシート等		
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○	○			
		・「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」について理解している。 ・「ボレロ」の作曲家や曲が作曲された背景、曲調について理解している ・校歌や「この道」をしっかりとした音程で歌うことができる。	・「音名と音部記号」、「音符と休符」、「拍子」について学んだことを応用して考えている。 ・「この道」の歌詞の情景をイメージし、創意工夫を生かした表現をしようとしている。	・表現活動や鑑賞活動、楽典の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価		
			観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽 「リコーダー」 リコーダーを演奏することで奏法を身に付け、奏法によって音色や響き、表情等の違いが生み出されることを理解する。また、アンサンブルを通してハーモニーの美しさを感じる。 ・ 鑑賞 「トゥーランドット」 オペラの構造について理解し、音色や旋律、曲想とのかかわりに関心を持つ。また音楽を評価しながら、音楽のよさや美しさを感じ取り、深く味わって聴く。 		知識 ・ 技能	授業での活動	
				実技テスト等	
			課題やレポート		
第2学期 期 末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典 「音階と階名」、「音程」 音階や音程の仕組みを理解することで、歌唱や鑑賞の際に生かすことができる。また、音楽の基礎を理解し、より学びを深めることができる。 ・ 歌唱 「0 sole mio」、「美女と野獣」 「0 sole mio」を通して、イタリア語の歌詞や発音を理解し、表現を工夫して表情豊かに歌う。また「美女と野獣」を通して、歌詞を内容や登場人物の心情などを理解して、ハーモニーを感じながら歌う。 		知識 ・ 技能	授業での活動	
				実技テスト等	
			課題やレポート		
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
				評価 規 準	・リコーダーの演奏技術や奏法を身に付けている。
					・「トゥーランドット」「0 sole mio」の作曲者や曲が作曲された背景、曲調について理解している。
・「音階と階名」「音程」の仕組みを理解している。					
学年 末 考査 まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作 「旋律の雰囲気を変化させよう」 ある旋律に音を加えたり、リズムや拍子、調などを変えたりして、自分や他者の音楽を感じ取る。同時に記譜の仕方についても学び、正しい記譜ができるようにする。 ・ 日本の伝統音楽 日本にまつわるそれぞれの時代の様式や楽器の特徴について理解する。 ・ 歌唱 「蛍の光」 本曲が「蛍雪の功」のことわざを由来にしていることについて理解し、歌詞の意味を自ら考えながら理解する。また、卒業式での歌唱に挑む。 		知識 ・ 技能	授業での活動	
				課題やレポート	
			作品や課題		
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○	
				評価 規 準	・「蛍の光」の歌について理解している。
					・日本の伝統音楽の様式や特徴について理解している。
・「蛍の光」の歌詞の意味について自らの力で考えている。					
・これまでに学んだことを踏まえて自ら創作活動に取り組み、自分の考えを表現することができる。					
・表現活動や創作活動、鑑賞活動に主体的に取り組もうとしている。					
・音楽を奏でることの楽しさや美しさを感じようとしている。					

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1 年	学科	普通科	類型				
教科	芸術	科目	美術 I		単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	「美術 1」(光村図書)		補助教材等					
科目の目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めさせ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えさせ、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。							
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	重点	○	◎	○				
	評価規準	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。				
期間	学習指導計画(学習内容とそのねらい)				観点別評価			
				観点	評価の手段			
第 1 学期 中間 考查まで	【表現】 絵画「想像した世界を描く」 ・自分のイメージに合った画材を選択し、ぼかし、にじみ、重ね塗りなどの技法を効果的に用いて、独特の空気感や質感を表現できる。 ・主題を際立たせるための構図(対比、反復、強調など)を理解し、画面の中に意図を持って配置できる。 ・日常の風景や経験をヒントに、自分なりの「想像の種」を見つけ、それを飛躍させてオリジナリティのある世界観を構築できる。 ・描きたいこと(メッセージや雰囲気)に合わせて、色調や形を意図的に変容させ、独自の表現を追求できる。 ・正解のない「想像」という領域に対し、試行錯誤を繰り返しながら、自分らしい表現を最後まで粘り強く追求しようとする。 ・鑑賞活動を通じ、友人の作品にある多様な想像力や表現の工夫を認め合い、表現の幅を広げようとする。			知識 技能	作品や課題 振り返りシート等 授業での活動			
			思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等 課題やレポート				
			主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等 課題やレポート 授業での活動		作品や課題		
第 1 学期 期末 考查まで	【鑑賞】 教養としての美術史①「原始美術からルネサンスまで」 ・紀元前の洞窟壁画からルネサンス期に至るまでの、西洋並びに東洋美術(日本を含む)作品を鑑賞し、それぞれの時代における表現技法やモチーフ、素材の違いを理解する。 ・人類文化の発展において美術が果たした役割について考察する。			知識 ・ 技能	課題やレポート 振り返りシート等 授業での活動 小テスト			
			思考 判断 表現	課題やレポート 振り返りシート等 授業での活動 小テスト				
			主体的に 学習に取り 組む態度	振り返りシート等 課題やレポート 授業での活動				
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	評価規準	・造形の要素の働きを理解している。 ・意図に応じて絵筆や絵の具の特性を生かしている。 ・元となるモチーフの色彩にとらわれず造形を創意工夫し、自分の主題を追求して創造的に表している。	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから造形を再構成し、主題を生成している。 ・画用紙と絵の具の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	・主体的に絵画表現の創造活動に取り組もうとしている。				

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価		
				観 点	評価の手段	
第2学期 中間 考査 まで	【表現】デザイン「立体切り絵で作るランプシェード」 <ul style="list-style-type: none"> ・黒い紙とトレーシングペーパーの組み合わせで立体切り絵によるランプシェードを作る題材である。 ・素材同士の接着は、テープのり、あるいはセロハンテープを用いるものとする。ただし、セロハンテープを用いる場合は鑑賞者から見えるところに貼ってはならない。このことにより鑑賞者の立場に立ったデザインを思考・判断・表現する力を育み、かつ、限られた技法で主題を表現する豊かな発想力を育てる。 ・余力のある者は作品に着色してもよい。その際は、バランスあるいは統一性の取れた色彩表現をすることで造形的なよさや美しさを追求する。 			知識 技能	作品や課題	
					振り返りシート等	
				授業での活動		
第2学期 期 末 考査 まで	【鑑賞】教養としての美術史②「バロック・ロココからモダンアートまで」 <ul style="list-style-type: none"> ・1600年代から1900年代前半までの芸術作品を概観し作品に現れた近代自我のめばえと世界認識の方法を理解する。 ・同時代の西洋美術と東洋美術（日本美術を含む）を比較し、表現手段の違いを理解することで、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考察し、見方や感じ方を深める。 			知識 ・ 技能	課題やレポート	
					振り返りシート等	
				授業での活動		
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○		
				評価 規 準	・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。	
					・意図に応じて素材の特性を生かしている。 ・限られた素材や技法の中で造形を創意工夫し、自分の主題を追求して創造的に表している。	
学年 末 考査 まで	【表現】絵画「デッサン」 <ul style="list-style-type: none"> ・対象を多角的に観察し、プロポーション（比率）やパースペクティブ（遠近感）を正しく把握する技能を身につける。 ・鉛筆の硬度や芯の角度による線の変化を理解し、対象の質感（硬い・柔らかい・光沢がある等）に応じた描き分けができる。 ・光源を意識し、明部・中間部・暗部・反射光・影の5つの要素を表現することで、画面の中に立体感を生み出すことができる。 ・対象を「物」として見るだけでなく、形や色の階調（グラデーション）として抽象的に捉える思考力を養う。 ・細部まで見逃さない観察眼を持ち、納得のいく形や質感が現れるまで、修正を恐れずに試行錯誤を繰り返そうとする。 ・描く前と後で、日常の見慣れた風景や物に対する解像度（見え方）が変化したことに喜びを見出す。 			知識 技能	作品や課題	
					振り返りシート等	
				授業での活動		
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○		
				評価 規 準	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから造形を再構成し、主題を生成している。	
					・画面紙と鉛筆の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1年	学科	普通科	類型			
教科	芸術	科目	書道 I	単位	2	必修 選択	選択
使用教科書	新編 書道 I (大修館)		補助教材等				
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を身につけさせる。						
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	重点	◎	○	○			
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 書表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して、理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能や知識を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫している。 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。 	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。			
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価			
				観 点	評 価 の 手 段		
第1学期 中間 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> 書写から書道へ 書写と書道の学習の違いを確認し、芸術科書道への関心・意欲を高める。 漢字の書【楷書】 唐の四大家の楷書 唐の四大家による古典の臨書・鑑賞を通して、楷書の規範・典型を学ぶとともに、同じ書体の中での書風の違いとその多彩な美を感じ取ることで、表現力の基礎を養う。 	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	作品や課題 振り返りシート等		
					作品や課題 振り返りシート等		
					授業での活動 振り返りシート等		
第1学期 期末 考查まで	<ul style="list-style-type: none"> 北魏の楷書 書風の多様性を知り、鑑賞・臨書することで、字形と用筆の特徴をつかむ。 創作 学習した楷書の書風を生かして意図に基づいて主体的に表現する。 	知識 ・ 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取 組む態度	作品や課題 振り返りシート等 小テスト		
					作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等		
					授業での活動 振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
		◎	○	○			
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能や知識を身に付けている。 古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能や知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 意図に基づいた表現について構想し工夫している。 	主体的に漢字の書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期中間考査まで	○篆刻 雅印制作 ・印の作品における役割や種類を知り、篆刻の用具・用材、手順について理解する。 ○漢字の書【行書】 「蘭亭序」「風信帖」臨書 ・鑑賞・臨書を通して、行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。			知識 技能	作品や課題
				思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 振り返りシート等
第2学期期末考査まで	○仮名の書 仮名の成立と種類 ・日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解する。 平仮名の単体・連綿の練習 ・仮名の基本的な筆使いを学ぶ。 古筆鑑賞 ・「継色紙」「升色紙」「寸小庵色紙」を鑑賞し、伝統的な構成方法と古筆の美しさを味わい、書に対する感性を豊かにする。			知識 ・ 技能	作品や課題 小テスト
				思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能や知識を身に付け表している。 ・漢字の書体の変遷、仮名の成立等について理解している。	・書よさや美しさを感じ、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	主体的に漢字や仮名の書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
学年末考査まで	○漢字仮名交じりの書 ・自分の心に響いた言葉を素材に、漢字と仮名の調和を図りながら、古典を生かした表現や、現代に生きる表現について構想し工夫して創作する。 ・自分の作品と友達の作品を互いに鑑賞し、作品について根拠をもって批評出来るような思考力や表現力を身につける。			知識 技能	作品や課題
				思考 判断 表現	作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等
				主体的に 学習に取り 組む態度	授業での活動 振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	・目的や用途に即した効果的な表現の技能や知識を身に付けている。 ・漢字と仮名の調和した線質による表現の技能や知識を身に付けている。	・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成について構想し工夫している。 ・目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。	主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	1年	学科	普通科	類型	共通		
教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	単位	3	必修 選択	必修
使用教科書	Revised「BIG DIPPER English Communication I」 (数研出版)		補助教材等	「BIG DIPPER English Communication I」 ベーシックノート、ワークブック			
科目の目標	<p>日常的な話題について、話される速さや使用される語句や文、情報量などにおいて多くの支援を活用すれば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を読んだり聞いたりして、書き手や話し手の意図を把握することができるようにする。 ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることができるようにする。 						
観点別評価	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	重点	◎		○		○	
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を読んだり聞いたりして、書き手や話し手の意図を把握する知識を身に付けている。 ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、論理性に注意して話したり書いたりして伝えることができる技能を身に付けている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を読んだり聞いたりして、書き手や話し手の意図を把握している。 ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、論理性に注意して話したり書いたりして伝えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を読んだり聞いたりして、書き手や話し手の意図を把握しようとしている。 ・基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、論理性に注意して話したり書いたりして伝えようとしている。 	
期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）				観点別評価		
第1学期 中間 考査まで	知識 技能	LESSON 1 Wagashi a Sweet Tradition 和菓子の特徴や歴史、レシピについての英文を読み、様々な英語表現を学び、理解を深める。本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、簡単な英語を使って自分の意見を話したり書いたりする。		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート		
		LESSON 2 Smartphones and Smart Users 電話の変遷や携帯電話の良い点、悪い点、デジタルデトックス等に関する英文を読み、概要や要点を把握する。本文の内容について学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を短い英文で書いたりはなしたりする。			定期考査等 実技テスト等 授業での活動		
		主体的に学習に取り組む態度			実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第1学期 期末 考査まで	知識 ・ 技能	LESSON 3 Two Kinds of Leadership 2種類のリーダーシップなどについて、本文の内容を読み取り、理解を深める。概要や要点を把握し、本文の内容について学習した語句や文法事項を用いて、簡単な英語を使って理由を示して自分の考えを話す。		思考 判断 表現	定期考査等 実技テスト等 課題やレポート		
		LESSON 4 Older Sports and Newer Sports いろいろなスポーツの歴史や魅力について本文の内容を読み取り、概要や要点を把握する。本文の内容について、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合う。			定期考査等 実技テスト等 授業での活動		
		主体的に学習に取り組む態度			実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等		
第1学期	観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		◎		○		○	
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を読み取り、理解を深め、概要や要点を把握する。 ・言語材料（現在形、過去形、未来を表す表現、現在完了、現在進行形、命令文）を理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容について、事実や自分の考えを整理して、書いたり、相手に伝えたりしている。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書いたりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容について、事実や自分の考えを整理して、書いたり、相手に伝えようとしている。 ・学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書いたりしようとしている。 	

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第2学期中間 考查まで	LESSON 5 AI Meets the Arts AIやAIによる芸術などについて本文の内容を読み取り、理解を深め、概要や要点を把握する。本文の内容について、学習した語句や文法事項を参考に、本文の感想をペアで話し合う。 LESSON 6 Dynamic Pricing: A New Pricing System ダイナミックプライシングやそれに関する複数の人の意見を英文で読み、概要や要点を把握する。本文の内容について、学習した語句や文法事項を参考に理由を示して自分の考えを相手に伝える。			知識 技能	定期考査等
					実技テスト等
				課題やレポート	
思考 判断 表現	定期考査等				
	実技テスト等				
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等				
	課題やレポート				
	授業での活動				
振り返りシート等					
第2学期期 末考查まで	LESSON 7 The Maldives: A Dream Destination? 人気の観光地が抱える問題などについて本文の内容を読み取り、理解を深める。概要や要点を把握し、本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、オーバーツーリズムについて調べ、自分の考え等を発表する。 LESSON 8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream Kazu Hiroの書いた手紙や仕事、将来の夢などについて本文の内容を読み取り、理解を深める。概要や要点を把握し、本文の内容を踏まえ、自分の将来の夢について簡単な英語を使って書き、発表する。			知識 ・ 技能	定期考査等
					実技テスト等
				課題やレポート	
思考 判断 表現	定期考査等				
	実技テスト等				
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等				
	課題やレポート				
	授業での活動				
振り返りシート等					
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・英文だけでなくその根拠となる図表を読み取る技能を身に付けている。 ・事実や自分の考えを整理し、教科書に書かれている表現や語句等を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各Lessonの内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり、書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、書いたりしようとしている。 	
学年 末 考 査 ま で	LESSON 9 From Recycle to Upcycle モットイナイ精神やリサイクルとアップサイクルの違い、様々な人の意見についての英文を読み、理解を深める。概要や要点を把握し、本文に関連したテーマについて自分の考えを理由を示して書き、発表する。 LESSON 10 Diversity at Japanese Companies 日本企業の雇用や、日本企業のさまざまな取り組みなどについての英文を読み、理解を深める。概要や要点を把握し、本文の内容について、ペアで話し合い、Hintsを参考にして自分の考えを表現したり、意見交換をしたりする。			知識 技能	定期考査等
					実技テスト等
				課題やレポート	
思考 判断 表現	定期考査等				
	実技テスト等				
授業での活動					
主体的に 学習に取り 組む態度	実技テスト等				
	課題やレポート				
	授業での活動				
振り返りシート等					
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	
	評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定法過去、過去の習慣would、過去の習慣・状態used to、助動詞+be+過去分詞の用法について理解している。 ・上記の文法事項を用いて、正しい英文を書く技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文に書かれている内容の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深めるために本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり書いたりしようとしている。 	

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準



学年	2 年	学科	普通科	類型	共通
教科	家庭	科目	家庭基礎	単位	2 必修 選択 必修
使用教科書	高等学校 改訂版 家庭基礎 持続可能な未来をつくる (第一学習社)		補助教材等	生活ハンドブック (第一学習社) とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会) 学習ノート (第一学習社)	
科目の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>				
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	重点	○	◎	○	
	評価規準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価	
				観 点	評価の手段
第 1 学期 中間 考査 まで	家庭科の学び方ー学習から実践へ ホームプロジェクトとは・学校家庭クラブ活動とは ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 1 章 これからの生き方と家族 第 1 節 生涯の生活設計, 第 2 節 家族・家庭と社会とのかかわり ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 6 章 衣生活をつくる 第 1 節 人の一生と被服, 第 2 節 被服材料, 第 3 節 被服管理 ・社会生活を営むうえでの被服の役割を理解し、用途に合った着装を実践できる力を身につける。 ・被服の材料や性能、加工について科学的に理解し、被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につける。 ・健康・快適・安全な生活を送る為に被服に施されている工夫、手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう管理や手入れの工夫について理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
					課題やレポート
					授業での活動
第 1 学期 期末 考査 まで	6 章 衣生活をつくる 第 3 節 これからの衣生活 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。 5 章 食生活をつくる 第 1 節 人の一生と食事, 第 2 節 栄養と食品, 第 3 節 食生活の安全のために ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義や食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 ホームプロジェクト ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	定期考査等
					実技テスト等
					作品や課題
第 1 学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○	作品や課題
					課題やレポート
					授業での活動
第 1 学期	評価 規準	生活を主体的に営むために必要な、人の一生、衣生活、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	ライフプラン、衣生活、食生活分野の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	作品や課題
					課題やレポート
					授業での活動

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価	
			観 点	評価の手段
第2学期 中間 考查 まで	<p>ホームプロジェクトの製作・発表・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームプロジェクトの発表を通して、自分の考えを人にわかりやすく伝える方法を学ぶ。級友の発表を聴く姿勢も育てる。 <p>8章 経済生活をつくる</p> <p>第1節 私たちの暮らしと経済、第2節 消費者生活の自立に向けて</p> <p>第3節 持続可能な社会をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 毎日の生活におけるさまざまな契約と契約の重要性について理解する。 消費者には権利と責任があること、消費者問題を予防し適切に対応できるように、消費者保護制度について理解する。 生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 <p>5章 食生活をつくる 第4節 食生活をデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につける。 調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 <p>防災・減災について</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分事として理解を深めていく。 		知識 技能	実技テスト等
				作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
			思考 判断 表現	実技テスト等
				作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
			主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
				振り返りシート等
第2学期 期末 考查 まで	<p>5章 食生活をつくる</p> <p>第4節 食生活をデザインする</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、健康によい、栄養バランスのよい食事とはどのようなものかを理解する。 郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。配膳やマナーに関心を持つ。 世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。 自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 <p>2章 次世代をはぐむ</p> <p>第1節 子どもの発達、第2節 子どもの生活、第3節 子育て支援と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に応じて適切に関わるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 子どもや子育てに対する理解を深めるために、保育実習などの子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか考えて実践しようとする。 		知識 ・ 技能	定期考査等
				作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
			思考 判断 表現	定期考査等
				作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
			主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
				振り返りシート等
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ◎
	評価 規 準	生活を主体的に営むために必要な消費生活、環境、家族や保育、食生活分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	消費生活、家族や保育、食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
学年 末 考查 まで	<p>3章 充実した生涯へ、4章 ともに生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> 超高齢社会の課題を踏まえて、高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考える。 私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。 調理実習（防災食）を通して、防災についての意識を高める。 <p>7章 住生活をつくる</p> <p>第1節 人の一生と住まい、第2節 住生活の計画と選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。 自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適、健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解し、自身のライフプランニングをする。 		知識 技能	実技テスト等
				作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
			思考 判断 表現	定期考査等
				作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
			主体的に 学習に取り 組む態度	作品や課題
				課題やレポート
				授業での活動
				振り返りシート等
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ○	思考・判断・表現 ◎	主体的に学習に取り組む態度 ○
	評価 規 準	生活を主体的に営むために必要な住生活、家族・家庭及び福祉、食生活などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	住生活、家族や家庭・福祉、食生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

※「◎」特に重視する観点

令和 8 年度 年間学習指導計画及び評価規準

学年	2年	学科	普通科	類型	共通					
教科	情報	科目	情報 I	単位	2	必修 選択	必修			
使用教科書	最新情報 I (実教出版)		補助教材等	最新情報 I 学習ノート (実教出版)						
科目の目標	<p>科学的な知識や思考を用い、情報技術を活用して問題の発見・解決のための活動を通して、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的なコミュニケーションやデータの活用 of 技能を習得させ、情報社会と人との関わりについて理解させる。 社会事象を情報の結び付きとして捉え、問題の解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。 情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を養う。 									
観点別評価	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	重点	◎	○	○						
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 社会問題の解決のための知識として情報や情報技術を理解し、身に付けている。 事象と情報の関連に着目し、問題解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を情報とその結び付きの視点から科学的に捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の課題を主体的に解決しようとしている。 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 						
期間	学習指導計画 (学習内容とそのねらい)			観点別評価						
第 1 学期 中間 考查まで	知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する知識の意味と相互の関係について説明する。 情報化社会の特質について説明し、情報を活用した事例を挙げる。 情報モラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解し、SNSの活用など情報技術を用いたコミュニケーションの注意点を挙げるとともに、その活用や対策方法について理解し、改善しようとする。 知的財産権やそれが産業や文化に与えている影響と、その法律を挙げる。 著作物の適切な利用と公開の方法を理解し、著作物の適切な利用を説明する。 コンピュータの構成と動作について理解し、適切に接続、作動させる。 ソフトウェアやインターフェースについて理解する。 アナログとデジタルについて理解し、その特徴を説明し、情報のデジタル化について、より深く理解する。 2進数と情報量の関係について理解し、情報量を適切な単位で表現・変換する。 2進数などの相互変換や原理を理解し、情報を適切にデジタルで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な学習 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 				
							主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な学習 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
第 1 学期 期末 考查まで	知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報について理解しその保護や管理の方法について説明する。また、知的財産を適切に活用し、主体的に創作活動に参画する。 メディアの種類や機能について説明し、それを分類する。 メディアの特性について理解し、情報発信や情報の真意を読み解く。 メディアを活用してコミュニケーションの目的に合わせた方法を選択する。 音声情報のデジタル化について理解し、データ量を計算する。 画像情報のデジタル化について理解し、目的に応じてデジタル表現する。 データの圧縮について理解し、数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を適切に扱う。 通信方式の種類について説明でき、目的に沿った情報機器の接続を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な学習 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 					
						主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な学習 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 	
										<ul style="list-style-type: none"> 定期的な学習 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度							
第 1 学期	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の現状と関連法規について事例を踏まえて理解している。 メディアの機能や特性を理解し、適切なコミュニケーション手法を選択できる。 アナログとデジタルの概念を理解し、○進数と関連付けて取り扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> メディアの特性を考慮しつつ情報収集・活用し、その結果もとにしたコミュニケーションや表現ができる。 デジタル情報の取り扱いを踏まえ、アナログのデジタル変換や情報活用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ネットトラブルや知的財産権の取り扱いなど情報社会の問題を主体的に解決しようとしている。 メディアから得た情報を適切に扱い、情報伝達やコミュニケーションに活用しようとしている。 						

期間	学習指導計画（学習内容とそのねらい）		観点別評価			
			観 点	評価の手段		
第2学期中間考査まで	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの利用とその特性について説明し、適切なコミュニケーションを図るとともに、効果的な表現や情報伝達について改善する。 情報デザインについて理解し、意味と目的について説明する。 情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解し実践する。 報告書やレポートの作成手順を理解し、文書作成や、構成、について工夫する。 プレゼンテーションの作成、評価、改善の手順とスライド作成を実行する。 インターネットの階層構造などを理解し、IPアドレス等の仕組みを説明する。 WWWや電子メールなどインターネットサービスの内容と仕組みを理解する。 通信データの転送速度とファイル圧縮について理解し転送する。 情報セキュリティの考え方やマルウェアの種類、被害の実態について理解する。 		知識 技能	定期考査等		
				課題やレポート		
			授業での活動			
第2学期期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> Webページ作成について理解し、作成する。 アルゴリズムとプログラムについて理解し、簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できるとともに問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に取り組む。 プログラミング言語の種類とその特徴について理解し、目的やコンピュータの種類を考慮しつつ適切なプログラミング言語を選択する。 アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択する。 暗号化の方式と仕組みを理解し、情報セキュリティ対策をする。 プレーストリーミング等を用い、問題の発見・解決のための活動に参画する。 問題の発見の方法について理解する。 解決案を検討するため必要な情報を収集・整理する。 合意形成を目指し、問題解決案のための資料作成や程表を作成する。 問題解決にあわせた評価を計画・実施、分析して結果をまとめる。 データの種類と尺度水準について理解し、データを収集、整理する。 表計算ソフトを用いたデータの処理ができ、データを選択して収集する。 グラフの種類や機能を理解し、目的に応じデータを可視化して表現する。 		知識 ・ 技能	定期考査等		
				課題やレポート		
			授業での活動			
第2学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
					評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの構成や仕組みと情報セキュリティの方法について理解している。 コンピュータやソフトウェアの仕組みを理解している。 問題解決の目的やデータの取り扱いを理解し、分析手法や表計算ソフトの利用を提示できる。
						<ul style="list-style-type: none"> 情報の安全確保のため、適切な行動がとれる。 問題解決のための活動に積極的に参加し、解決案やグループの合意形成を立案できる。
学年末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> 変数や配列を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成する。また、問題解決のアルゴリズムに従い、基本制御構造を使用してプログラムを作成する。 関数の概念を理解して関数を使用して簡単なプログラムを設計、作成する。 多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。また、問題解決のためのアルゴリズムを考え、プログラムを作成するとともにそれらを自己・相互評価する。 相関係数を用いた分析など、問題解決のためのデータ分析の手法を選択し、分析結果を効果的に表現する。 データベースの意味と必要性を理解し、分析結果について改善する。 モデル化を理解し、表現形式や対象の特性によつて分類する。 モデル化する手順と方法を理解し、問題整理や問題の構造モデルを作成する。 動的に変化する現象を図的モデルで表すため表計算ソフトを用いて表現する。 シミュレーションの意義について理解する。 待ち行列を事例にモデル化とシミュレーションによる問題解決を行い、確定的モデルのシミュレーションの過程を表やグラフで表現する。 		知識 技能	定期考査等		
				課題やレポート		
			授業での活動			
第3学期	観点別 評価	知識・技能 ◎	思考・判断・表現 ○	主体的に学習に取り組む態度 ○		
					評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムやプログラムの内容を理解し、フローチャートを作成できる。 モデル化やシミュレーションの内容を理解し、表計算ソフトの関数を選択できる。
						<ul style="list-style-type: none"> 作成したモデルやシミュレーションを個人あるいは相互に評価している。 問題解決のために作成したプログラムを相互評価し、改善しようとしている。

※「◎」特に重視する観点